

事務事業名		道路・河川等維持補修事業		☒ 実施計画登載事業 ☐ 合併建設計画登載事業	
政策体系	政策名	潤いに満ちた快適な都市環境の創造		事業期間	
	施策名	良好な生活空間の創造			
	基本事業名	生活道路の整備			
根拠法令		道路法、河川法		予算科目 会計 款 項 目 事業 01 08 02 02 00 04 05 04事業(大船渡地区) 05事業(三陸地区)	
所属	部課名	都市整備部建設課			
	課長名	西山 春仁			
	係 名	道路管理係	電話 0192-27-3111		
	担当者	藤田 英夫	内線 314		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 市が管理する道路(1,397路線、約605km)、河川の不良箇所を早期に修繕等を行い、原形に戻す事業である。 事務事業の手順としては、①道路・河川パトロール及び市民からの通報(要望)等により、不良箇所の発見 ②不良箇所の現場確認 ③必要性、緊急度の判断 ④道路作業員により修繕可能であれば、修繕を行う。 また、道路作業員で対応できない場合には、⑤設計書作成 ⑥土木業者への見積依頼 ⑦見積提出を受けての支出負担行為伺い ⑧契約事務 ⑨現場施工を経て、完了確認 ⑩委託料の支払い となる。 なお、事業費は主に需用費(消耗品費、燃料費)、委託料、工事請負費、原材料費として支出される。					
全体計画(※期間限定複数年度のみ)					
総投入量 (千円)	事業費 財源内訳	国庫支出金			
		都道府県支出金			
		地方債			
		その他			
		一般財源			
		事業費計 (A)		0	
人件費	正規職員従事人数				
	延べ業務時間				
	人件費計 (B)		0		
トータルコスト(A)+(B)				0	

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標	
① 手段(主な活動) 前年度実績(前年度に行った主な活動) ＜1＞道路修繕 656箇所 ＜2＞水路修繕 44箇所 ＜3＞その他 47箇所 今年度計画(今年度に計画している主な活動) 道路・河川パトロール、又は市民からの連絡により不良箇所を確認する。 状況により、道路作業員により修繕、又は、土木業者に工事発注する。	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標) 名称 単位 ア 市道・河川修繕箇所数 箇所 イ ウ
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等 維持修繕を要する市道及び市管理河川 維持修繕を要する市道及び市管理河川利用者	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標) 名称 単位 カ 市道利用者数(市総人口) 人 キ 市道・河川修繕要望箇所数 箇所 ク
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) (維持修繕を要する市道及び市管理河川が)原形に戻される (維持修繕を要する市道・市管理河川利用者に)原形どおりに道路・河川を利用してもらう	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標) 名称 単位 サ 修繕要望に対する市管理分の対応率 % シ ス
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか) 安全で快適に移動できる。	

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(目標)	27年度(目標)	28年度(目標)	
			単位							
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円						
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円							
		一般財源	千 円	138,071	144,341	148,586	150,000	1,500,000	1,500,000	
		事業費計 (A)	千 円	138,071	144,341	148,586	150,000	1,500,000	1,500,000	
	人件費	正規職員従事人数	人	7	7	7	7	7	7	
		延べ業務時間	時 間	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	9,000	
		人件費計 (B)	千 円	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	174,071	180,341	184,586	186,000	1,536,000	1,536,000	
⑤活動指標			ア	箇所	300	400	747	400	400	450
			イ							
			ウ							
⑥対象指標			カ	人	39,410	39,410	39,090	39,410	39,410	39,410
			キ	箇所	646	487	924	800	800	750
			ク							
⑦成果指標			サ	%	46	82	80	50	50	60
			シ							
			ス							

事務事業ID	0661	事務事業名	道路・河川等維持補修事業
--------	------	-------	--------------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
市道認定及び財産取得により、維持管理が必要になった。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
市道認定路線が増えていることや、施設の老朽化により、維持修繕を要する道路、水路が増加している。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
毎年、市民から砂利道の舗装化や側溝の整備、路面補修等の要望が700件以上寄せられている。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒ 道路・河川の維持管理は、交通の利便性及び安全性の向上になり、その結果、都市環境の創造につながる。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒ 公共施設の適正な維持管理は、施設設置者である市の義務であり、交通事故の防止にもなるので妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒ 市道及び市管理河川を原形に戻す(修繕する)ことにより、利用者が安全に利用できる所以適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】⇒ 例年、市民の要望に対して、70～80%の対応しかできておらず、100%対応できるように成果を向上させる必要がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒ 維持管理を止めれば、道路・河川の損傷は拡大し、交通体系の低下、交通事故及び河川の氾濫等の増加につながる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒ 類似事業は無く、道路・河川の維持管理は専門的な知識、ノウハウを要することから、他に手段はない。 ☒ 他に手段がない ⇒【理由】⇒
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 増加する市道認定路線、減少しない市民からの要望等を考慮すると、事業費の削減余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒ 道路作業員が不足しており、市民要望に対応しかねている現状であることから、人件費の削減余地はない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒ 道路・河川修繕要望は市内全域から寄せられており、順次状況判断しながら対応していることから、公平な配分となっている。また、市が管理する道路や河川は、市の管理義務に基づき維持管理すべきもので、受益者負担はなじまない。

事務事業ID	0661	事務事業名	道路・河川等維持補修事業
--------	------	-------	--------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																					
① 目的妥当性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	管理施設の老朽化に伴い不良箇所が増加しているが、その全てに対応できていない状況であるため、予算及び人員を増加して、成果の向上を図らなければならない。																					
② 有効性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり																						
③ 効率性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
④ 公平性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)		(4) 改革・改善による期待成果																					
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 道路・河川施設は、経年劣化しており、不良箇所が増加し、市民から要望が多数寄せられている。現在は、市民要望に順次対応しているところであるが、交通事故及び自然災害の未然防止のために、道路・河川パトロールを強化し、不良箇所の早期発見も強化していかなければならない。		左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
		<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td>●</td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td>×</td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td>×</td><td>×</td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			●	維持			×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上			●																			
	維持			×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																							
市民要望が多く、その要望全てに応えるためには、多額の費用が要する。 軽微な修繕に対しては、道路作業員により行っているが、人員不足により、要望対応率が向上しない。 人員要求をしつつ、道路作業員で対応できない部分については委託で対応していく。																							

2次評価者	(職 名) ※原則として施策の主管課長 建設課長	(氏 名) 西山 春仁
-------	-----------------------------	----------------

4 事務事業の2次評価結果

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合																						
①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)																						
☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている																						
②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)																						
☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)																						
(2) 2次評価者としての評価結果	(3) 評価結果の根拠と理由																					
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	道路・河川の要望が多種・多様あり、要望に沿いかねているものもある。																					
② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり																						
③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)	(5) 改革・改善による期待成果																					
☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 限られた予算と職員の中で、引き続き緊急度・優先度等を考慮しながら対応する。	左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																					
	<table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td>●</td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			●	維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			●																		
	維持																					
	低下																					

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項